

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月16日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 0170200968 | | |
| 法人名 | 合資会社 笑顔と思いやりの和 | | |
| 事業所名 | グループホーム 和 | | |
| 所在地 | 〒002-8022 札幌市北区篠路2条7丁目6-12 (電話) 011-771-6139 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年3月11日 | 評価確定日 | 平成22年4月16日 |

【情報提供票より】(平成22年1月20日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|---------------|--------|-------------------------|
| 開設年月日 | 昭和(平成)14年7月1日 | | |
| ユニット数 | 1ユニット | 利用定員数計 | 9人 |
| 職員数 | 12人 | 常勤 | 9人, 非常勤 3人, 常勤換算 10.85人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|------|
| 建物構造 | 木造 | |
| | 2階建ての | 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|-----------------|-----------------|------------|----------------|
| 家賃(平均月額) | 30,000円 | その他の経費(月額) | 25,000~30,000円 |
| 敷金 | 有(円) 無 | | |
| 保証金の有無(入居一時金含む) | 有(円) 無 | 有りの場合償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 350円 | 昼食 400円 |
| | 夕食 | 400円 | おやつ 150円 |
| | または1日当たり 1,300円 | | |

(4) 利用者の概要(1月20日現在)

| | | | | | |
|-------|--------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 8名 | 男性 | 2名 | 女性 | 6名 |
| 要介護1 | 3名 | 要介護2 | 3名 | | |
| 要介護3 | 1名 | 要介護4 | 1名 | | |
| 要介護5 | 0名 | 要支援2 | 0名 | | |
| 年齢 | 平均 77歳 | 最低 | 69歳 | 最高 | 86歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|--------------------------|
| 協力医療機関名 | やしま内科消化器科クリニック 荒木病院 箱木歯科 |
|---------|--------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、JR篠路駅に近く、静かな住宅街に立地しているが、病院、スーパー、コンビニ、温泉施設、散策路等が近くにあり利便性が良い。2階建ての既存の建物を改築したワンフロア1ユニットの家庭的な事業所で、南向きの芝生敷きの庭には椅子やテーブルを設置し、暖かい季節には日光浴やティータイム、昼食、焼き肉パーティに利用している。看護師であるホーム長は、病院での高齢者介護の経験から、より自宅に近い環境で穏やかに過ごせるようにと考え、随所に心地良く暮らせる工夫をしている。事業所で飼っている犬も利用者の癒しとなっている。さらに、日中の職員配置も厚く、利用者の安心、安全に配慮している。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスとしての理念、評価の意義の理解と活用などの前回評価での改善課題について、管理者と全職員で話し合い改善しているが、介護の質の向上のため、さらなる改善策を、引き続き検討している。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が地域密着型サービスの意義を理解し、自己評価は職員個々が作成し管理者がまとめている。自己評価、外部評価は、誰でも手に取り見られるようにリビングに掲示している。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は家族代表、地域代表、地域包括センター職員、管理者、職員等が出席し、定期的開催している。会議では、行事予定と報告、地域との交流、防災計画等を話し合い、サービスの質の向上と事業所の運営に効果を上げている。特に、家族の参加が多い。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置しており、苦情対応窓口は重要事項説明書に明記している。また、家族来訪時には、意見や要望を聞き出せるような雰囲気を作り、話し合いをしている。個人別に暮らしぶりや健康状態を書いた手紙と写真を送付している。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の祭りや清掃活動に参加している。毎日の散歩時には近隣住民と挨拶を交わす等、地域との交流を大切にしている。管理者は町内会の会合に出席し、交流を重ねている。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----------|---|---|--------------------------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域と交流し家庭的な環境で生活するという地域密着型サービスを念頭に、事業所独自の理念をつくりあげている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 日々のミーティングやカンファレンスでは理念を掘り下げ、具体的ケアについて話し合いをしている。理念は事務室内にも掲示し、常に確認している。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入し、地域の祭りや清掃活動に参加している。毎日の散歩時には近隣住民と親しく挨拶を交わす等、地域との交流を大切にしている。管理者は町内会の会合に出席し、交流を重ねている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 全職員が、地域密着型サービスの意義を理解し、自己評価を作成している。自己評価、外部評価は、誰でも手に取り見られるようにリビングに掲示している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|---|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は家族代表、地域代表、地域包括センター職員、管理者、職員等が出席し定期的に開催している。会議では、行事予定と報告、地域との交流、防災計画等を話し合い、サービスの質の向上と事業所の運営に効果を上げている。特に家族の参加が多い。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市、区の担当部署とは、生活保護や成年後見制度の相談、助言、指導を受け、連携を取っている。行政から日々FAXで届く新しい情報を、ケアの充実に役立てサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族等の来訪時には近況を報告し、個人別に暮らしぶりや健康状態を書いた手紙と写真を毎月送付している。金銭管理については、利用者からの預かり金はなく、買い物は事業所で立て替え払いをしており、レシートのコピーと使用明細を付け報告している。 | ○ | 家族への情報提供が安心感につながり、信頼関係を深めることになるので、事業所全体の行事予定や報告、職員の異動等を盛り込んだホーム便りなど、機関紙の定期発行を期待したい。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置しており、苦情対応窓口は重要事項説明書に明記している。また、家族来訪時には、意見や要望を聞き出せるような雰囲気をつくり、話し合いをしている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 離職の際は、引継ぎ時間を十分にとり利用者のダメージを防ぐ配慮をし、全職員が馴染みの関係と信頼関係を大切にしている。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|--|----------------------|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部研修は月に1度実施している。外部研修は職員休憩室に情報を掲示し、参加を呼びかけている。研修参加後は研修報告書を作成し、全職員が情報を共有できるようにしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は札幌市グループホーム協議会、北区グループホーム管理者連絡会等で交流したり、情報交換を行っている。職員は近隣のグループホームで開催された救急救命講習に参加するなど、交流に努めている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 突然サービスを始めるのではなく、利用に当たっては、事業所見学や昼食を共にする等、徐々に馴染めるよう配慮しながら行っている。本人の安心と納得を見極め、自然に個別の利用開始に移行するようにしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は、利用者を人生の先輩として、得意分野で力を発揮できる場面設定に配慮、工夫をし、利用者中心の生活をしている。一人ひとりの希望に沿った支援ができるよう共に学び支えあい、喜怒哀楽を共有できる関係を築いている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々、共に暮らしていく中で、日常の様子や会話から個々の意向や希望の把握に努め、困難な場合は家族に相談し、何をしたいか、どのように暮らしたいか、誰に会いたいかという点に配慮し、本人本位の生活ができるように支援している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | ミーティングやカンファレンスで全職員による意見交換を行い、利用者本位の介護計画を作成している。センター方式を採用し、利用者の思いを聞きし、日ごろの関わりの中から、より良く暮らすためのニーズや希望を汲み取っている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は定期的に見直しをしている。毎日の状態を記録し、カンファレンスで話し合い、状況に即したケアプランを作成しており、心身の変化や急変時には随時見直しを行っている。必要な情報は、素早く把握することができるよう利用者一人ひとりに専用のケアプランカードックスを使い、利用者台帳、サービス提供表、介護記録などの情報を一括してファイリングしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 通院時の送迎や外出時の付き添い、日常的な散歩、買い物など、利用者や家族の状況や都合に応じた支援をしている。女性利用者とは一緒に美容室に行く等、個々の満足度を高めるよう対応している。また、近隣の住民から認知症の相談を受けるなど、事業所機能を地域に還元する取り組みもしている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者希望のかかりつけ医には、利用開始後もそのまま受診できるように、通院時の送迎も看護師であるホーム長がしている。協力医による訪問診療も受けている。また、病状や症状に合った病院を受診でき、常に適切な医療が受けられるように支援している。事業所には3名の看護師が勤務しており安心感につながっている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 利用者や家族と重度化した場合や終末期のあり方は早期から話し合っており、関係者全員で方針を確認し共有している。「重度化した場合における対応に係る指針」は文書化している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 個人情報記載書類の保管には細心の注意を払い、事務所で適切に管理している。また、何気ない言葉や語調が利用者の誇りを傷つけ、プライバシーを損ねることがないように、日ごろから十分注意している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 家族的な雰囲気の中で日々、自由に暮らしている。利用者個々のペースを大切にし、買い物や散歩等、その人らしい暮らしができるように、体調に配慮しながら、自己決定を優先し、希望に沿えるように支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の好みを聞きながら、日々の献立を決めている。利用者と一緒に調理、配膳、後片付け等を行い、職員も同じ食卓に着き、会話を楽しみながらゆっくり食事ができるように支援している。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 体調や要望を聞き、一人ひとりの習慣に合わせた入浴支援をしている。その日その時の希望や状況に合わせて、入浴剤にも配慮し、リラックスして入浴できるように支援している。入浴を拒否する傾向がある利用者には、声かけや時間を変える等の配慮をしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食事の準備、配膳、後片付け、掃除・菜園作り、犬の散歩等、利用者の経験や生活歴に応じた役割の支援を行っている。楽しみごとの場面等も作り、日々喜びや張りのある生活を送られるよう支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 心身の活性化につながるよう、荒天以外は日常的に散歩に出かけている。月に数度は、自然に屋外に出られるように全員で外食や行事外出しており、室内に閉じこもらない生活を支援している。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけないケアの大切さを理解し、日中は鍵をかけていない。外出傾向がある利用者には行動を抑制せず、職員も共に外出し個別に対応している。常に気配り目配りで見守り、自由な暮らしを実践している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 火災通報装置を2ヶ所に設置している。消防署協力の下、防災訓練は近隣住民も参加し年2回実施しており、夜間を想定した訓練も行っている。消火器の使用法や点検も行っている。また、職員の多くは、心肺蘇生法等の救急救命講習を受講している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 利用者と相談しながら、個々の好みを取り入れた献立を工夫している。旬の食材や鮮度に気を遣い、内容も良くボリュームもある。さらに、利用者一人ひとりの身体状況や病状に合わせ、個別に支援している。一人ひとりの食事量、水分量はチェック表に記録し、全職員で情報を共有している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者はリビングの思い思いの場所でくつろいでいる。神棚や行事写真、季節行事等の飾りもあり、家庭的な雰囲気である。トイレ、浴室、廊下には手すりを効果的に設置し、採光、臭気、温湿度、換気に注意を払い、心地よく過ごせるよう配慮、工夫している。また、事業所で飼っている犬が利用者の癒しとなっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室には、昔から使い慣れた馴染みのタンスやソファを置き、家族写真や手芸作品を飾り、心地よく落ち着いて過ごせるように工夫している。 | | |

※  は、重点項目。